

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

謹賀新年

本年も宜しくお願い申し上げます

平成27年 元旦



独立行政法人水資源機構
思川開発建設所長

伊藤 邦展
外 職員一同

栗沢地区で道路工事が進んでいます！！

付替県道栗沢7工区工事の進捗状況



【斜面への森林表土吹付け状況と完成したコンクリートブロック壁】

鹿沼市上南摩町の栗沢地区では、現在、山の一部を掘削したり、谷間を土で埋め戻したりして、新たな道路を造る「付替県道栗沢7工区工事」を行っています。

山の一部を掘削すると斜面が出来ますが、その斜面の最下段をコンクリートブロック製の壁で押さえる工事が完了しました。その壁の上部に残った斜面には、現在、森林の表土を吹き付けています。この表土は、同じ栗沢地内で採ってきた自然の表土を使用しており、地区周辺で元々生えていた草木の種が含まれていることから、時間が経てば、自然の状態に戻っていくことを期待しています。（←左写真）。

また、山の一部を掘削して出た土砂は、なるべく再利用することとしており、谷間を埋め戻すための土として使いますが、埋め戻した土が崩れてこないように支える壁を造るための作業をまず行っています。この壁が出来れば、次に谷間の埋め戻しを行っていく予定です。（右写真→）

工事の実施に当たり、今年も、地域の皆様にご迷惑をかける様、充分注意いたします。特に、工事関係車両の一般道路における通行時のマナーにつきましては、一層の徹底を図るように努めます。

工事期間中、何かとご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。



【谷間を埋め戻す土が崩れないよう支える壁を造っています】

許すな！！不法投棄

鹿沼警察署との事業用地内合同パトロールを実施しました



【パトロールに出発！！】

南摩ダムの事業用地内には、ビニール袋に入ったゴミを始め、家具や家電製品など不法に投棄されたと思われるゴミ類が、時々発見されます。

こうした不法投棄に対する対策のひとつとして、12月18日、鹿沼警察署（西沢駐在所及び口栗野駐在所）と思川開発建設所による合同パトロールが行われました。

これまでも、不法投棄対策として、警察との連携により、投棄物から所有者の特定を行うなどの成果を上げています。また、投棄が行われた林道の入り口に、関係者以外

の立ち入りを防止するためのゲートや看板を設置したり、監視カメラや電光の警告掲示板を設置するなどの対策も行っています。

今回の合同パトロールの結果を受け、今後、周知看板を増設するとともに、警察による巡回の回数を増やしていただくなど、対策の充実に努めていきたいと思えます。



【標示内容を確認！】



【杓子沢工区を巡視】

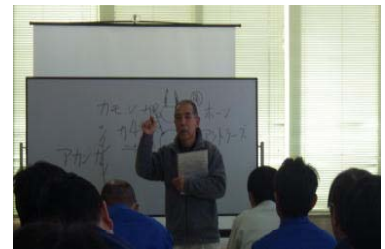
平成26年度思川開発建設所環境学習会

「野生動物の生態と人との関わり」について学習しました！！

去る12月18日、平成26年度思川開発建設所環境学習会を開催しました。

この学習会は、環境保全に関する意識の啓発として、平成14年度から毎年開催しているものです。

今回の学習会では、近年、野生動物による農林業への被害ばかりでなく、住宅地にまで進出し人身被害が多発していることから、思川開発事業生態系保全委員会委員である哺乳類専門家の矢澤高史先生を講師にお招きし、「野生動物の生態と人との関わり」について講演をいただきました。



【講演中の矢澤先生】

講演では、ご自身の体験に基づく「野生動物と接する際の注意点」のほか、野生動物にはそれに適した環境が必要であり、環境が変化すると、適応出来ないものは淘汰され、新たな環境を好むものが集まって来ること、開発と野生動物の生態との関係は事実の積み重ねで観察することが大切であることなどが紹介されました。



【学習会の様子】

今回の学習会には、当建設所職員や工事・調査関係者以外に、鹿沼市からもご出席をいただきました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

栗野地域自治会協議会連絡会の皆さんに 工事現場を見ていただきました！！

去る10月27日、当思川開発建設所のある鹿沼市栗野地域（旧栗野町）に属する4地区の自治会協議会役員の集まりである栗野地域自治会協議会連絡会の18名の皆さんが、南摩ダムの貯水池予定地及び付替県道工事箇所を視察されました。

視察は、まず、建設所にて事業概要の説明を受けた後、現地にて、高台からダム予定地の見学を行い、続いて、付替県道栗沢7工区工事現場の状況を見学しました。

ご参加の皆さんから、「付替県道工事の切土工事を身近で見ることができ、山間部での工事の大変さが良く分かった」などの感想が寄せられました。

思川開発建設所では、このような視察会等の取り組みにより、皆様のご理解をいただくことに努めていきたいと考えております。



【付替県道栗沢7工区にて】

思川流域のご紹介

第2回 思川の流れる里（その1） ～ 双体道祖神の宝庫 鹿沼市栗野地域 ～



思川の名前の由来については、前月号（第46号）にて、ご紹介しました。

ところで、思川と呼ばれている川の範囲は、どこからどこまででしょうか。現在、思川の範囲は、足尾山地の地蔵岳に源を発してから渡良瀬川に合流するまで、とされています。しかし、一級河川となる昭和40年（1965年）以前は、水源から栗野川に合流するまでを「粕尾川」、黒川と合流するまでを「小倉川」、そして、その下流を「思川」と呼んでいました。

今回は、思川の上流部、かつて粕尾川と呼ばれていた流域の鹿沼市栗野地域（旧栗野町）をご紹介します。

栗野地域は、林業が盛んで、思川の流れる粕尾地区の山地にもスギやヒノキの造林地が広がっています。また、思川には、溪流釣りやアユ釣りに訪れる太公望で賑わいます。かつては、思川に沿った道を通り粕尾峠を越えて、銅山のある足尾方面への生産・生活物資の輸送が行われ、その中継地としても賑わっていました。

栗野地域を紹介する際、忘れてならないのは、双体道祖神です。この地域には、古くからの双体道祖神があり、このうち、粕尾地区に8体の双体道祖神があります。

道祖神は、路傍の神で、石碑や石像の形で祀られており、村の守り神、旅や交通安全の神として信仰されていますが、男女2神が仲睦まじく祀られている双体道祖神は、男女和合の神としても信仰されています。

粕尾峠にほど近い思川の最上流部にある発光路の田ノ畑双体道祖神には、明和元年（1764年）と記されており、（次頁へ→）



【粕尾地区を流れる思川】



【田ノ畑双体道祖神】

(→前頁から)

明確な年代記載のあるものでは、栃木県内最古となっています。

足尾方面へは日光から入る国道122号線が整備され、思川に沿った道を通りつづら折れの粕尾峠を経由して足尾に抜ける車両は日中でもまばらとなりますが、思川沿いの樹木や峠から見える遠くの山並みは、春には新緑、秋には紅葉と見事な景観がご覧いただけます。

トピックス

地元産の新そばに舌鼓 上南摩そば祭り



晩秋の鹿沼では、市内各地で「そば祭り」が開催されます。上南摩地区においても、去る11月23日、そば祭りが開催されました。

今回で7回目となるこの催しでは、地元のそば打ち名人による地元産の新そば粉を使ったそば打ちの実演・販売のほか、昔ながらの杵臼による餅つきが行われ、地域ぐるみの催しに、会場となった上南摩町自治公民館広場は、大勢の

【新そばを求めて長い行列】 人で賑わいました。

また、途中、佐藤鹿沼市長も来場されて、餅つきのお手伝いをされるなど、お祭りは一層盛り上がりしました。

このそば祭りの実行委員会代表である久保田登貴男さんは、「この催しを通じて、地域の活性化と一体化を図るとともに、上南摩そばのブランド化が推進出来れば」と話していました。



【地元のそば打ち名人】



【地元産のもち米で】

○ 職員の異動（転出及び転入のご紹介）

転出) お世話になりました。

11月1日付 調査設計課 小林 良史（総合技術センターへ）
工務課 佐瀬 勝亮（下久保ダム管理所へ）

転入) 宜しくお願いします。

11月1日付 工務課 鎌田 幸平（本社特命審議役付から）



編集 後記

謹賀新年 皆様には、いかが新年を迎えられましたか。

今回の年末年始のお休みは、暦の並びで例年もよりも長く、ごゆっくりとお正月を過ごされたのではないのでしょうか。新年を迎え、職員一同、新たな気持ちで頑張りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2

Tel (0289) 85-1110 Fax (0289) 85-1211

<http://www.water.go.jp/kanto/omogawa/index.html>